

セキュリティホワイトペーパー（RayBarcode）

メシウス株式会社

2024年11月15日 Ver 1.0

用語の定義

このホワイトペーパーで使用する用語の定義を以下に示します。

用語	定義
Salesforce	クラウドベースの顧客関係管理（CRM）ソフトウェア
Salesforce 組織	Salesforce を利用する企業や組織の独立した利用環境
AppExchange	Salesforce 用のビジネスアプリのマーケットプレイス
AppExchange アプリ	AppExchange から配布される Salesforce 上で動作するアプリケーション。 個々の Salesforce 組織にインストールされ動作する。
Microsoft Azure	マイクロソフト社が提供するクラウドコンピューティングサービス

はじめに

1.1 ホワイトペーパーの目的

このホワイトペーパー（以下、本書）は、メシウス株式会社（以下、当社）が提供する「RayBarcode」におけるセキュリティの取り組みを、サービス利用者の方に向けてご確認いただくことを目的としております。

1.2 責任共有モデル

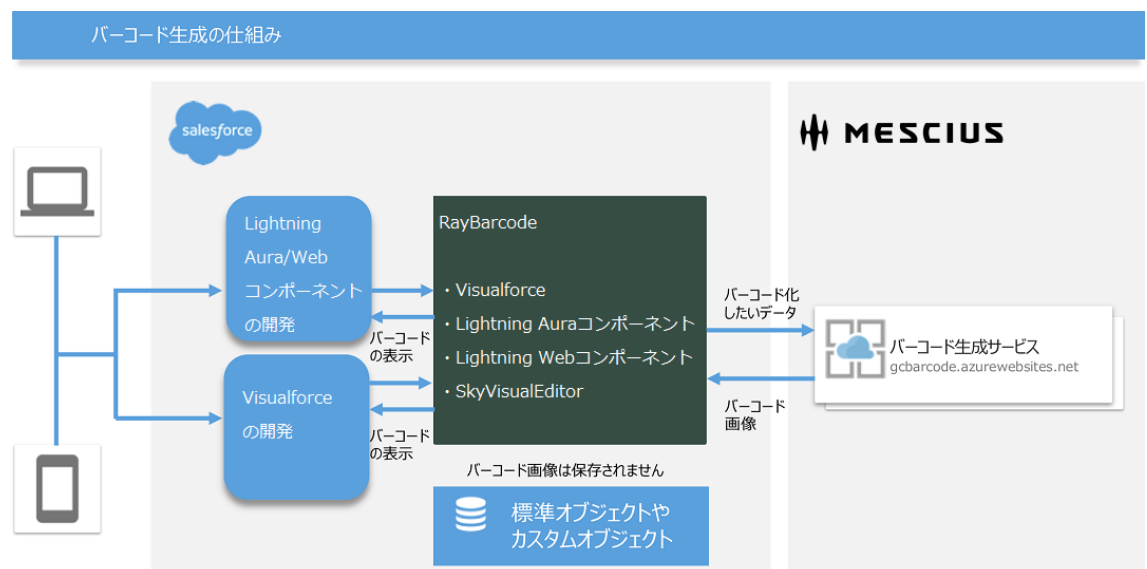
「RayBarcode」は Salesforce の AppExchange アプリです。Salesforce 利用者の個々の Salesforce 組織にインストールされ動作します。「RayBarcode」は Salesforce における責任共有モデルに準じております。

Salesforce における責任共有モデル：

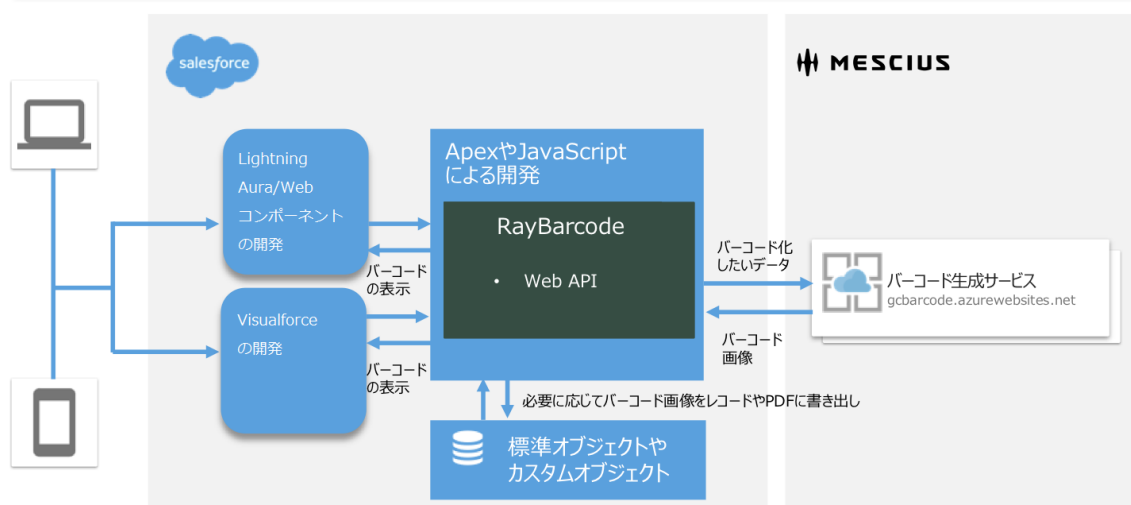
<https://www.salesforce.com/jp/company/shared-responsibility-model/>

この責任共有モデルの中で、「アプリケーションの開発・パッケージ」部分については基本的には Salesforce の責任であり、利用者がカスタマイズ・パーソナライズした部分については利用者の責任範囲となっております。この責任共有モデルに準じて「RayBarcode」開発部分が当社の責任範囲となります。

また、RayBarcode の機能の一部であるバーコード生成機能は Salesforce 外に Microsoft Azure を採用して構築されており、以下の図のような仕組みになっています。



Web APIによるバーコード生成の仕組み



本機能において、前述した Salesforce における責任共有モデルの他に利用者の責任範囲が増えることはありません。Microsoft Azure と当社の責任範囲については Microsoft Azure クラウドにおける共同責任に準じております。

Microsoft Azure クラウドにおける共同責任：

<https://learn.microsoft.com/ja-jp/azure/security/fundamentals/shared-responsibility>

この共同責任のデプロイ種類を「PaaS」として、当社と Microsoft Azure の責任範囲が分かります。

2 セキュリティへの取り組み

2.1 ISO/IEC27001、JIP-ISMS517-1.0 (ISO/IEC27017)

当社は、2022年7月に情報セキュリティマネジメントシステム (ISMS) の国際規格である ISO/IEC 27001:2013 (JIS Q 27001:2014)、および ISO/IEC 27017:2015 (JIS Q 27017:2016) を取得しております。「RayBarcode」が保有する情報資産を機密性、完全性、可用性の観点から維持・改善するために、事業内におけるセキュリティルールを確立し、継続的に運用、監視、改善を行っております。

2.2 クラウドコンピューティング環境

「RayBarcode」は Salesforce の AppExchange アプリとして、Salesforce 利用者の個々の Salesforce 組織にインストールされ動作します。また、RayBarcode の機能の一部であるバーコード生成機能は Microsoft Azure を採用しています。

2.3 アカウント管理

アカウント管理はクラウドコンピューティング環境である Salesforce に準じます。

2.4 サービス内におけるアクセス制限

アクセス制限はクラウドコンピューティング環境である Salesforce に準じます。

2.5 特権的なユーティリティプログラムの使用

「RayBarcode」を利用するためのサービス固有のアカウントはなく、特権ユーザーは存在しません。そのため、特権的なユーティリティプログラムの使用もありません。

2.6 データの保管場所

お客様のデータは、Salesforce 利用者の個々の Salesforce 組織に保管され、当社が管理するサーバ、またはストレージに保存されることはありません。

また、RayBarcode のバーコード生成機能は Microsoft Azure で構築／運用しておりますが、お客様の情報は一切保存されておりません。

2.7 データの利用

お客様のデータは当社が管理するサーバ、またはストレージに保存されないため、お客様のデータを当社が利用することはございません。

2.8 データの削除

お客様のデータは当社が管理するサーバ、またはストレージに保存されないため、お客様のデータを当社が削除することはございません。

2.9 アクセスコントロール

アクセスコントロールはクラウドコンピューティング環境である Salesforce に準じます。

2.10 暗号化の状況

お客様のデータは当社が管理するサーバ、またはストレージに保存されないため、暗号化対象のデータはありません。

2.11 バックアップの状況

お客様のデータは当社が管理するサーバ、またはストレージに保存されないため、バックアップ対象のデータはありません。

2.12 クロック

クロックはクラウドコンピューティング環境である Salesforce と Microsoft Azure に準じます。

2.13 ログに関する情報

「RayBarcode」は、情報セキュリティポリシーに従い、最低 12 か月間のアクセスログを保存しています。収集したログは、サービス利用状況の把握などの目的で使用します。

2.14 情報のラベル付け

「RayBarcode」は、保存されたデータに対してラベル付けを行う機能は提供していません。

2.15 ネットワークの分離

「RayBarcode」は Salesforce の AppExchange アプリとして、Salesforce 利用者の個々の Salesforce 組織にインストールされ動作します。また、RayBarcode のバーコード生成機能は Microsoft Azure で構築／運用しております。当社が管理するネットワーク環境はありません。

2.16 サービスのバージョンアップ

サービスのバージョンアップは、実施前に「RayBarcode」利用契約時にご登録頂いた担当者のメールアドレスに対して、メールにてご連絡いたします。

2.17 開発におけるセキュリティ情報

「RayBarcode」のシステム開発は、Salesforce プラットフォーム上で動作するアプリケーションであり、Salesforce のセキュリティガイドに従っております。また、株式会社セールスフォース・ジャパンによるセキュリティレビューを実施しています。

Salesforce のセキュリティガイド：

https://developer.salesforce.com/docs/atlas.jp.220.0.securityImplGuide.meta/securityImplGuide/salesforce_security_guide.htm

2.18 インシデント発生時の対応

当社 Web サイトのお知らせページ (<https://raykit.mescius.jp/news/>) にて通知いたします。また、影響度に応じてご契約者様・追加連絡先へのメール配信も行います。

なお、お客様からの情報セキュリティインシデントに関する問合せは、メールで

es.security@mescius.com までお知らせください。

2.19 適用法令

「RayBarcode」は利用者の Salesforce 組織上で動作しており、Salesforce 組織はそれぞれの地域に存在します。また、RayKit サービス利用規約（準拠法および裁判管轄）において、準拠法および裁判管轄について定めております。

RayKit サービス利用規約：

<https://download.raykit.mescius.jp/license/raykit-license.pdf>

【改訂履歴】

本書の改訂履歴は以下のとおりです。

Ver.	発行日	改訂内容
1.0	2024/11/15	制定